

高信頼性組織化のための地域連携のあり方 についての研究：コンビナートを事例として

神戸大学 大学院海事科学研究科 准教授

藤川 なつこ

(お問い合わせ先) E-MAIL : fujikawa@maritime.kobe-u.ac.jp



研究の背景

2011年、東京電力福島第一原子力発電所で発生した原子力事故は、企業の危機管理がいかに十全とはかけ離れたものであるかを露呈しました。企業の有する技術が高度化、複雑化の一途をたどる中で、ひとつの組織事故の発生は、社会に甚大な被害をもたらしかねません。そこで、組織事故の発生を未然に防ぐ仕組みづくりが急務となっています。

「高信頼性組織研究」では、一般的な組織に比べ、置かれている環境の不確実性や技術的リスクが非常に高く、ひとつの失敗がもたらす社会への影響が格段に大きいにもかかわらず、高い信頼性の実績を残している「高信頼性組織」に焦点をあて、その組織特性について明らかにしてきました。

しかしながら、今日、単一組織が有する組織事故を防止する能力には限界が生じてきており、有事においては、むしろ単一組織内で問題を抱え込まず、地域の組織が連携し、早急に問題に対処することが求められています。また、有事の際に地域の組織が結束するためには、平時において防災・事業継続のための組織間の関係を構築しておく必要があります。

研究の成果

本研究では、高信頼性組織の構築や組織間学習の視点から、コンビナートにおける危機管理に関して理論的・実証的研究を行い、地域連携を通じて「高信頼性組織化」を図る重要性を提唱しました。さらに、組織事故を未然

に防ぐ組織を設計するためには、組織構造と組織文化とともに管理することが必要なことを明らかにしました。

組織は、平時には、安定的な環境の下で、技術的合理性を追求し、集権的組織が構築されますが、有事の際には、不測の事態に柔軟に対処し、事故の拡大を防ぐために、分権的組織に移行する必要があります。したがって、組織は、自らに適した「ストラクチャル・コントロール(組織構造による統制)」および「ソーシャル・コントロール(組織文化による統制)」を通じて、平時と有事に求められる組織デザインの違いを明確にし、組織事故の発生を防止する必要があることを示しました(図1)(表1)。

今後の展望

本研究で得られた、組織安全や防災、危機管理についての知見は、組織事故の発生リスクが高まる他の産業にも活用することが期待できます。今後も、組織事故の発生・防止のメカニズムを明らかにすることで、組織における生産性と安全性の調和に資する研究を行ってきたいと考えています。

関連する科研費

2011-2014年度 若手研究 (B) 「日本の原子力発電所におけるリスク管理の現状と課題」

2014-2017年度 若手研究 (B) 「四日市コンビナートにおける防災・事業継続のための企業間連携の現状と課題」

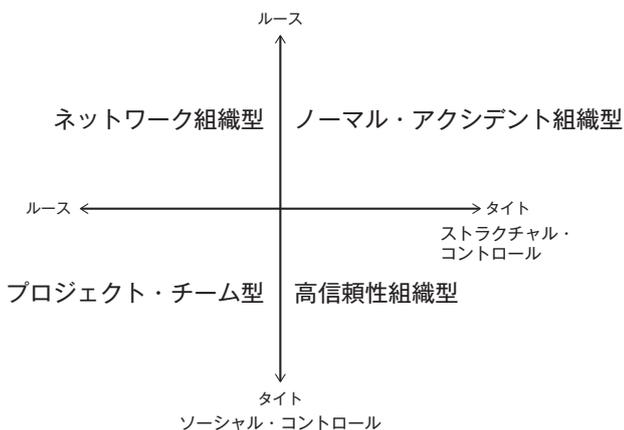


図1 ストラクチャル・コントロール/ソーシャル・コントロール・チャート

表1 組織類型と組織構造、組織文化、不確実性、戦略との関係

	ノーマル・アクシデント組織型	高信頼性組織型	プロジェクト・チーム型	ネットワーク組織型
ストラクチャル・コントロール	タイト	タイト	ルール	ルール
ソーシャル・コントロール	ルール	タイト	タイト	ルール
手段(技術)の不確実性	低い	低い	高い	高い
目標合意の不確実性	高い	低い	低い	高い
リーダーの戦略	妥協的戦略	計画的戦略	判断的戦略	直観的戦略
平時の組織	集権的組織	集権的組織	分権的組織	分権的組織
有事に求められる組織	集権的組織	分権的組織	分権的組織	集権的組織